

## 池田さんインタビュー

創業当時の社員で、みそら野の歴史とともに歩んできた元社長池田光夫氏にインタビューしました。

### Q 50年を振り返って特に思い出されることは何ですか？



S43 事務所をバックに20代の池田さん

**A** 何と言っても一番は昭和40年のみそら野別荘地開村式です。当時の太田新助白馬村村長から別荘開発を打診され開発を行った大阪の帝塚山学院 PTA 関係者、白馬村や近在の名士の方々、別荘地を購入くださった方々、工事関係者……とにかく盛大な式典でした。みそら野という名前もその際、皆様からの投票結果、地籍名『深空』を『ふかそら』から『みそら』と読み替え『野』をつけた『みそら野』という綺麗な名前に決定しました。

その次の大きな思い出は、やはり56豪雪です。昭和55年暮れから降り始めた雪は年が明けた56年正月も降り続き止んだのは10日後。その間、除雪をし続けていました。深夜に帰宅すれば今度は自宅の除雪。また、寝る間もなく出

勤。累積積雪深は13～14mだったと記憶しています。あらゆる物が雪に埋まり、交通はマヒ、八方尾根からの雪崩にも見舞われ、別荘に被害がでたものの人的被害がなかったことに救われました。雪が止んだ時、10kg痩せていました。かつては、本社のある大阪に電話ひとつかけるにも2～3時間待ちでようやく繋がったものです。

みそら野別荘地は、当初帝塚山学院の関係者も多く、お医者様が沢山おられ、休日に子供の急患を見ていただいたこともありました。

苦労と言うよりただひたすら無我夢中でした。1998年冬季オリンピックも大きな出来事でした。そうそう南海ホークスの広瀬選手夫妻を別荘地案内したという野球好きの私にとっては楽しい思い出もあります。

小さな会社がここまでこれたのも全て皆様方のお陰と感謝しています。

## STAFFインタビュー

(紙面の都合により幾つかのインタビューから1つだけ掲載します)

### Q みそら野の中で一番好きな季節は？ 風景は？

(森) スノーボードが出来る冬!! と言いたいけれど(笑)、雪融けの春が好きです。新緑がきれいでも落ち着きます。ごりゅう北通りの上の方。五竜岳が正面に綺麗に見えます。

(小池) 春かな。でも実は選びきれない。平川沿いは気分転換によく散歩します。冬の冷えた朝の山の美しさも好きです。

(山本) 冬がいい。何故って蜂がいらないから。毎年毎年どれだけ蜂にさされたことか!! 夏は嫌だ!! 源太郎にある頭首工から見る山が好き。

(松本) 初夏のみそら野が好き。風景は冬の源太郎からみる朝焼け。  
(早朝除雪している者にだけに与えられし風景ですね by kanno)

(菅野) 秋。紅葉の盛りの晴れた日、みそら野の中が赤や黄色、時には金色に輝いて見えます。その時期のてんぐ通り奥かられんげ通りにかけての明るさと輝きが好きです。まさに錦秋。



みそら野の碑の前で

### 編集後記

みそら野だより50周年記念号を発行するにあたり、ぜひ「みそら野別荘地」に古くから縁のある方に原稿をお願いしたいと考えました。50年の歴史を語って下さる方も少なくなってきた中、突然のお願いにも関わらず暖かな文と素晴らしい写真をお寄せ下さった常世様にお礼申し上げます。常世様の遠い記憶がありありと見えるような気がします。紙面を作り当社の古いアルバムを捲っていたら、今と近い将来に向き合う事が一杯で仕事している自分の気持ちがコトツと音を立てて変わった気がしました。振り返れば行く先もまた同じ。この地でそれぞれの良い時間を紡いでくださることを願います。今、『みそら野』に縁ある多く皆様に少しタイムスリップしていただけたら幸いです。

菅野 有子

# みそら野だより 50周年記念号

発行日 2013年10月 発行元 白馬総合開発株式会社 みそら野管理事務所



国道148号現在のシェル石油付近から白馬三山とみそら野別荘地を望む

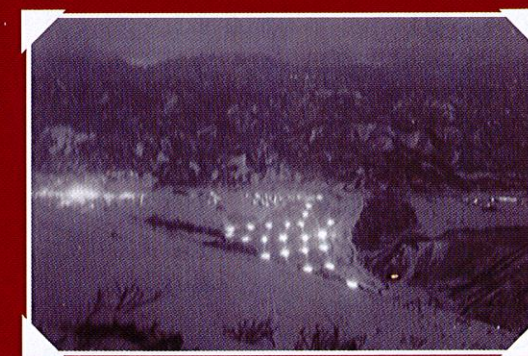
## 社長あいさつ

お陰様で弊社は創業以来50年を迎えることが出来ました。これも偏に、別荘地をご購入頂いたお客様、日頃ご芳情を賜わっている白馬村関係者の皆様、お取引業者様、また恵まれた自然環境のお陰と存じ、深く感謝しております。

弊社は東京オリンピックの前年に産声を上げ、今日に至っております。原野を開拓し、お客様と共にみそら野の礎を築いてこられた諸先輩に対し、改めて敬意を表します。

就任の折、本紙ご挨拶で申し上げましたが、弊社は、お客様に満足して頂けるような管理と、みそら野の不動産価値の維持、向上とを並行して取り組んでいます。50年の伝統に誇りを抱くと共に、伝統に相応しい管理をしているか自問し、感謝の気持ちを忘れず、お客様の意に沿った管理を心掛け、従業員と共にサービス精神の向上に努めてまいり所存です。

みそら野別荘地は、白馬を中心に北陸から甲信地方まで数時間で往復できる広大な大自然に位置します。また近年、スキーのみならず、パラグライダー、マウンテンバイク、ラフティングなど、空・山・川を立体的に楽しんでいる姿をよく見かけるようになりました。この素晴らしさを、幅広い客層に訴え、多くの皆様が繰り返し訪れるような別荘地を目指し取り組んで参ります。みそら野の発展は、弊社の



八方池山荘からの夜景  
(明かりが見えるのは白馬駅周辺とみそら野別荘地)

夢の開花でございます。別荘地の管理はもとより、みそら野の発展のため、お気づきのことがあればどのようなことでも構いませんので、ご意見をお寄せください。お客様のご意見・ご要望が、弊社を成長させる良薬であると信じています。今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

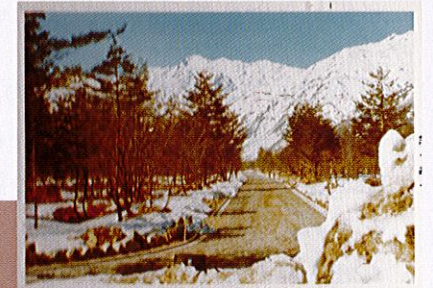
創業50周年に当りお客様への感謝の意をお示ししなければならぬのですが、弊社の独断で、些少ではございますがお客様のお気持ちを添えて、白馬村に金一封を寄贈させて頂きましたことをご報告申し上げます。

平成25年10月吉日 代表取締役 花原 信好

## みそら野別荘地年表 & 概要

S35頃	太田新助白馬村村長が観光事業の大きな柱として別荘地開発を考案
S38.9	白馬総合開発株式会社設立(当時大阪本社) 同年、深空地籍の買収が完了し本格的造成開発開始
S40.6	『みそら野別荘地』開村式 1次分譲地
S45	2次分譲地完売
S50	3次分譲地完売
H元	本社を白馬(現みそら野管理事務所)に移転
H10(1998)	冬季長野オリンピック開催

分譲直後のみそら野(樹木がまだ低いですね)



総面積 約27万坪  
総分譲区画数 約1300区画  
現在の建物数(非別荘含む) 総区画の約半数強



## みそら野のこと思い出すままに

常世美緒子様寄稿

白馬山麓にみそら野が誕生してからもう50年が経つとかー  
長い様であり又短かった気も致しますが、それにしても月日の経つのはなんと早いのでしょう。

そもそも白馬との縁は古いのです。私の父は当時（昭和の初め頃）としては割合新しい考えの人だった様で家族連れでの登山を計画・実行したのですが、その頃の社会情勢ではかなり勇気の要ることだったと思われます。

最初は富士山で、二番目に目指したのが白馬岳でした。昭和13年、私が小学校5年生の時です。ところがその頃は確たる天気予報などない時代一登り出して大雪渓にかかる頃から荒れ出し、頂上の村営小屋に辿り着いた時には暴風雨となっていました。長野農学校の先生が一人遭難され、小屋に收容されて父達もお手伝いして全身摩擦を続けたそうですが、その甲斐もなく亡くなられました。台風は3日間吹き荒れて山小屋の食糧も心細くなった頃おさまりましたが、最初のアルプス登山は山の恐ろしさを教えられた強烈な体験となりました。

その後、しばらくすると次第に戦争の影が濃くなり山行きは中断せざるを得なくなりました。戦後何年か経って白馬山麓分譲地の案内があった時には父はもう亡くなっていましたが大変なつかしく心が躍ったものです。

50年前のみそら野の開村式の頃を思い出して見ますと、今の高圧線の鉄塔のある広場が会場となり、様々のイベントが行われました。くす玉が割られ、参加者の投票の結果みそら野の名称がきまりました。木彫りの講習会もあり、その時母の彫った壁飾りが今も残っております。そうめん流しは子供達が喜んで頂きました。

大阪からバスが出たのですが、当時の道路事情はまだ良くなくて、帰りの糸魚川に出る道路にはひやひやした事を覚えております。

## その頃のみそら野

樹木の丈は今のようによくなくて窓から白馬が見えると喜んだものでしたがーあれから50年、木々の成長は驚くばかりです。

れんげつつじも見事でしたが、何時しか見られなくなり残念です。カッコー、ホトトギス、オオルリ、シジウカラの声がひびき、日暮れになるとキョトキョトキョトとヨタカが啼き出して旅愁をかきたたてたものですし、里への夜道は蛍がクリスマスツリーのようにきれいでしたよ。或夜庭先に熊が来て徘徊しベランダの手すりに鋭い爪跡を残していった事がありました。まさかと人は信じてくれませんでした。これはホントの話！！

## 虫のこと・その1ー

大きな甲虫がとんできて子供たちは喜びましたね。それと草かけにはナナフシと云うカマキリのカマと翅を取ったような不思議な虫がいて、ゆらゆらと体をゆらしていたものですが、あんなに沢山いたナナフシは一体どこへ行ってしまったのでしょうか。

## 虫のこと・その2ー

蟻の大群も出ましたし、ミツ蜂とスズメ蜂の熾烈な戦争も目撃しました。小さな体でけん命に戦うミツ蜂にフレーフレーと声援を送ったものでした。

## 大雨の記憶ー

何時だったか大雨が降って平川の水嵩が増え、岸がえぐられて氾濫するのではないかと皆で真剣に心配した事も思い出の一つです。

余談になりますが、今、みそら野別荘地の入り口にある記念碑に白馬山麓みそら野と彫られている文字は、当時母が師事していた書の大家、田中塊堂先生の筆によるものであり、こうした様々の縁を頂いて幸せなみそら野生活を送らせていただきました事を深く感謝しております。

以上、思い出すままに記しましたが、何しろ古い話ですので間違いがありましたらお許しください。

